

令和6年6月



スクールカウンセラー 中野隆治



「選択—あれかこれか」



今回は「選択」について話を進めて行きたいと思います。生きるということは選択の連続と言っても過言ではありません。人は毎日、何をするか、どんな行動をするか、無意識に選択をしているはず。ある心理学者は、人間は一日に数万回の選択を無意識にしていると言っています。もちろん、みなさんの前には様々な選択が控えています。友人の選択、進路の選択、将来の選択……みなさんは常に選択の前に立たされていると言ってもいいかもしれません。

そんな人間の選択について、かつて一つの判断の目安を示した哲学者がいました。デンマークのセーレン・キルケゴールです。彼は、その大著『あれかこれか』の中で、人間の選択には、「美的選択」と「倫理的選択」があると言っています。「美的選択」というのは、その時の流れに身をまかせて楽な方へ舵を取る、いわば享乐的な生き方です。一方、「倫理的選択」というのは、自分で悩み苦しみながら人生を切り開く生き方です。現在、美的選択と似た道を取る人が多いのではないかと思います。誰かがひいてくれたコースに乗っかるだけの、簡単に手に入る生き方だからです。それに対して、「倫理的選択」を選んだ人は、多くの困難や苦悩に直面することになります。ところが、キルケゴールは、あれかこれかの岐路に立った時、人間は苦しい道を選ぶべきだと言っています。苦しい道を選んだ方が自分で納得でき、たとえうまく行かなくてもやれるだけやっという満足感が得られるのではないかと思います。みなさんはどうでしょうか。いわば予定調和の道を選ぶのか、前人未踏の道を選ぶのか。判断はみなさんにおまかせします。

ちなみに、キルケゴールは、若い頃、社交界の花形としてもはやされた生活を送っていましたが、ある時、神の啓示を受け(彼はコペンハーゲン大学の神学部出身でした)、自分自身を考え直す生活に方向を転じました。彼はそのことを、「自分自身を選ぶ」と表現しています。それは、人生を主体的に生きることの選択に他なりません。あれかこれかと悩んだ末に、彼は、「倫理的選択」を選んだのでした。彼は、実存主義(過去や未来にとらわれず、現在の生き方を優先する考え方)と言われる哲学の研究に没頭することにしたのです。

ある心理学者の言によると、選択時の人間の心理としては、常に51対49の割合で選択が決定するということになります。その時々人間の心理は微妙な比率の上に成り立っているということでしょうか。選択が人間の前に常にあるとすれば、正しい選択をするに越したことはありません。正しい選択をすることで、人生を主体的に選んだことになり、人生がより充実したものになるからです。

みなさんの賢明な選択を願っています。